

もり

くさ

さいせい

# 森と草はらの再生プロジェクト



この度、(公財)日本生態系協会は、千葉県長南町(房総半島)に所有するナショナル・トラスト地\*において、『森と草はらの再生プロジェクト』を始めました。

このトラスト地は一つの山ではありますが、一部はバブルの時代に土砂が取られてしまい、外来の生きものが入ってきてしまうなど、本来あるべき“地域の自然”のほとんどない、荒れた土地となっていました。そこに自然の森と草はらを取り戻し、さらに土地全体の自然の質がより良くなるよう、みなさんのお力を借りながら管理していこうというのが、このプロジェクトの大筋です。

土地の一部は自然を再生する墓地『森の墓苑』として2年前から活用を始め、その周りを含めすでに120本を超える植樹と、さまざまな野草の種まき・植え付けを行ってきました。当地は、豊かな自然の証であるサシバやフクロウなどの鳥たちが訪れ、すぐそばの水辺ではゲンジボタルとヘイケボタルが同時に、しかもたくさん舞うなど、首都圏のなかでも自然の質がもともと高い場所です。そしてこの春にはオシドリがたまごを産み、これまで姿を見ることができなかった在来の野草たちが芽生え始めるなど、先行の取り組みが少しずつ成果をあげつつあります。

ところで、私たちはこの活動の鍵は「人」と考えています。自然のための技術者「ビオトープ管理士」や研究者のみなさん、「森の墓苑」のお客さま、子どもたちをはじめとする地域の方々、さまざまな企業・団体などにご協力をいただきながら、楽しく、ドラマチックに、しかし確実に、森と草はらを再生していきたいと思えます。

自然は、子どもや孫たち、100年先やそのもっと先の子どもたちにも手わたすことのできる、優しく美しいプレゼントです。みなさんもぜひ、“いろいろなかたち”でご参加いただければ幸いです。

\* ナショナル・トラスト 自然などの大切な資産を、寄付や買い取りなどにより市民自身の手で入手し、守っていく活動のこと。



**森田 正光** 理事  
(株)ウェザーマップ会長  
気象予報士

森と草はらがあつてこそ、たくさんの生きものが訪れ、季節の移り変わりを感ずることが出来ます。これから賑やかになりますね。



**八千草 薫** 理事  
俳優

ストレス社会、何でも機能的に出来ている社会、そんな中で生活している我々が原風景に包まれて時を過ごす安堵感を感ずして下さい。



**山根一真** 理事  
ノンフィクション作家  
ジャーナリスト

ゼロからの森と草はらの再生。これは、植物と動物の世界がいかにかつられていくかが見られる、わくわくする前代未聞の大挑戦です。

私たちが  
このプロジェクトを  
応援しています



## ● 目標

- ・バブルの時代に土砂を取られ山ごと自然がなくなってしまった場所に、地域の樹木や野草を植え、約50年をかけてもとの自然を取り戻します。
- ・まずは、フクロウが当地で子育てをして、巣立つことを目指します(フクロウのビオトープ)\*。
- ・また、土地全体の自然の質をあげ、のちのちは房総半島の立派な森になるよう育てます。
- ・活動を通して自然に優しい人を育てるとともに、人と人のネットワークを広げ、地域づくりに貢献します。

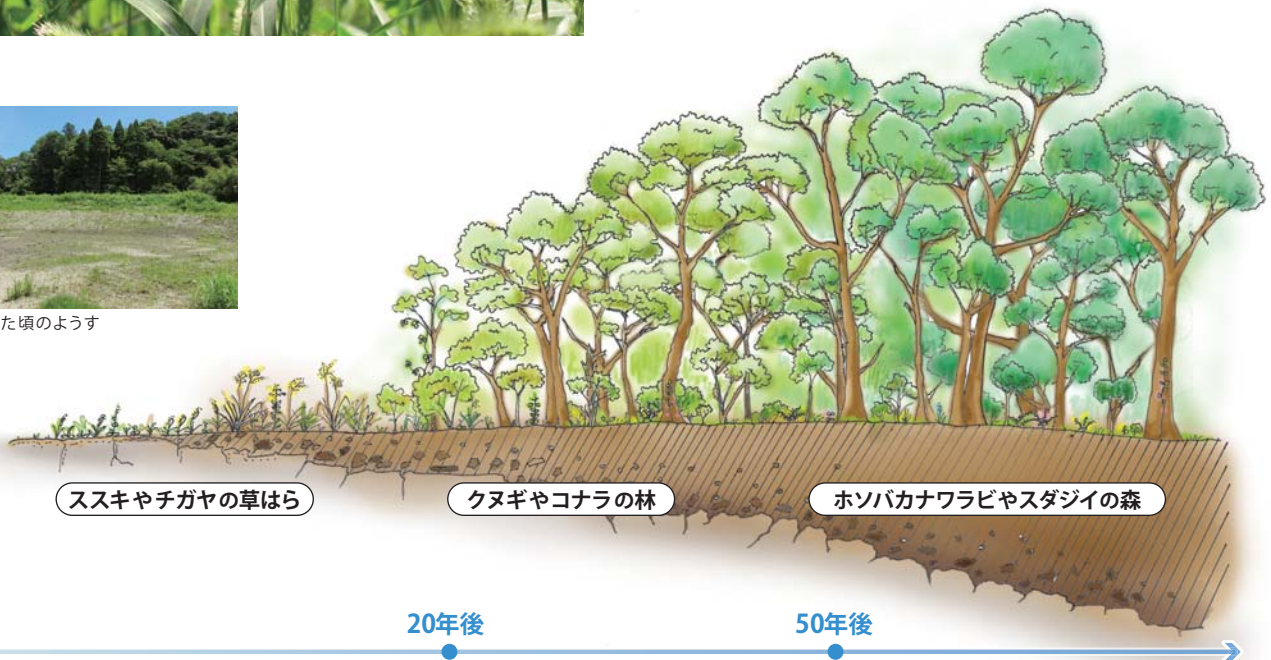
\* ビオトープ 遠い昔からもともとその地域にいる野生の生きものたちがすむ場所のこと。

## ● こだわり

- ・樹木、野草とも、植えて良いものは「遠い昔からこの地域にもともとあるもの(在来種)」だけに限ります。そうすることにより、この地域にもともといる野生の生きものたちがすめるようになります。
- ・一方で、自然をこわしてしまう、よそからやってきた生きもの(外来種)は、できるだけ取り除いたり、これ以上増えないように努めます。
- ・植“樹”にかたよりがちな取り組みが多いのですが、当協会では樹木だけでなく「野草」も(むしろ「野草」こそが)重要だと考えています。野草は土を肥し、耕します。そこに樹木が生えてくるのが自然であり、いずれ林に、森にと移り変わっていきます。



取り組みを始めた頃の様子

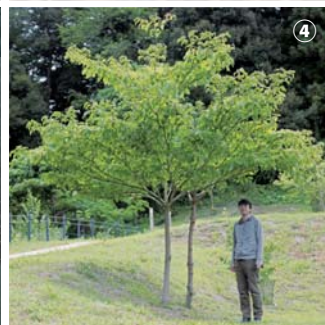


## ● 活動のメニュー / できること

- ・ 在来の植物の植え付け作業、その後どうなったかの調査、これから植える木や草の苗の世話
- ・ 外来の植物の抜き取り作業、本来はなかった竹の刈り取り作業(雑木林を取り戻すため)
- ・ 池の質を良くするための作業、散策路などの整備、野鳥たちのための巣箱づくり・巣箱かけ
- ・ 野生の生きものの保護や増殖(数が少なくなってしまったもの、今はまだ普通に見られるもの、ともに)
- ・ 自然や生きものの観察、環境イベント、野生の生きものなどの研究(調査や研究の場の提供)
- ・ 以上に関して、企業や団体、学校などの受け入れ
- ・ ほかの場所での、自然に関する講演や研修の実施
- ・ 寄付や寄贈、サポーターの受け入れ …など

## ● 最近のできごと

- ① 各地で数が減っており、千葉県内ではいなくなってしまう心配もされているフクロウ。なかなか姿を見ることはできませんが、ホーホーと声が聞こえ、羽も落ちているなど、当地を利用していることが判明しました。2月にはフクロウのための巣箱をかけましたが、使ってくれるでしょうか？ 今後が楽しみです。
- ② やはり各地で数が減っており、県内ではいなくなってしまう心配もされているオシドリが、この春、当地でたまごを産みました。今回は残念な結果となりましたが、かわいいチビちゃんたちにお目にかかれるまであと一息です。
- ③ 5～6月には、トラスト地周辺の水辺でゲンジボタルとヘイケボタルが同時に舞う姿を見ることができました。この2種は時期がずれるのが普通なのですが、乱れ飛ぶようすは、まるで映画やドラマのようでした。
- ④ 先行して植えられたミズキなどの樹木は、ほんの数cmの苗木だったものが今や4mを超え、涼しげな木陰をつくるなど、ひと夏、ふた夏を経て大きく育ちました。その立派さをご覧いただければ、この先いかに森や草はらが再生されていくかをご想像いただければと思います。





圏央道・市原鶴舞ICより約8km、約10分



圏央道・茂原長南ICより約11km、約15分



## ● 場所

- ・房総半島の真ん中あたりにある、当協会が所有するトラスト地が舞台です(千葉県長生郡長南町市野々)。
- ・このトラスト地の面積は約3万6,000㎡(サッカーフィールド約5面分)、土砂が取られ自然がこわされてしまった部分のほか、昔から残されている自然のままの部分、もともとは生えていなかった竹が入り込み竹林になってしまった元・雑木林、染み出た水が自然に溜まり今では多くの生きもののすみかとなっている池など、さまざまな環境があります。
- ・研修会や共催イベントのご相談、企画のお持ち込み、取材のお申し込みなど、まずは担当までお問い合わせください。(下見・打ち合わせ 応相談)

## ● 今後の予定

- ・2018年 10月 11日(木)・12日(金)  
環境に力を入れている建設会社の社員研修
- ・2018年 12月 9日(日)  
日本ビオトープ管理士会の研修会
- ・2018年 12月末頃  
オシドリの巣箱かけ作業
- ・2019年 3月10日(日) 仮  
植樹草会 …など

## ● その他

- ・一部は自然を再生する墓地『森の墓苑』として先行して活用されています。墓石の代わりに種から育てた在来の樹木を植え、区画を契約することが自然を取り戻す活動そのものとなっているため、契約された方はやすらぎを得られると同時に、「終活」を通じて社会に貢献することができます。これは日本で初めてで、唯一の取り組みです。

### 森の墓苑

- web [morinoboen.org](http://morinoboen.org)
- Instagram [instagram.com/morinoboen/](https://www.instagram.com/morinoboen/) 森の墓苑

